

令和 6年 7月 13日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	町村議会議員研修
研修・視察実施場所	松本市 キッセイ文化ホール 大ホール
研修・視察の期間	令和6年7月13日 13:00～16:20
研修・視察の成果等	議員のなり手不足は「住民自治の危機」その打開の道を探ると題して、大正大学の江藤俊昭教授からは地方議員が減ることによる、地方議会の危機と二元代表制の趣旨が損なわれることによる民主主義の危機、地方自治体の3つの危機があると説明されていた。現在の現状からみる議員のなり手不足の原因として、やりがい・環境・待遇が伴っていないこと。 地域コミュニティの限界、立候補・選挙の障壁により議員になりたいと考える人が居なくなっていると説明されていた。特に町村議員の報酬が低いことは生活することができないと言われていた。 昨年の研修でも議員報酬の改善は言われており、報酬を引き上げる必要は私も感じているところであるが、自治体の財政や住民の意見を鑑みると、簡単には上げられない現状があると思われる。本当に必要なのは、議員報酬を引き上げる事ではなく、仕事をしながらも議員をすることができる環境を整える事が必要だと感じている。

	現代において議員の存在はあまり意味を持たないと考えている住民が大半である。住民の興味がないなかで、議員の仕事を伝えようとしても気にも留めないのが現実で、そこを無理やり気を持たせようとするのは良い結果にならないと感じている。昨年と今回の研修を聞いても残念ながら私の考えとは別軸だと捉えてしまった。 次に「私たちはローカルで幸せを見つける」～7 関係人口とリジェネラティブ～と題した月刊ソトコト編集長の指出和正さんからは、移住だけにとらわれるのではなく、住んでいなくても市町村と深い関りを持つ関係人口を増やすことが、地方を活性化させ、移住につながると説明された。 ソトコトで取り上げてきた全国事例をいくつか紹介してくれた。トヨタ自動車の持つ広大な森林を生かしてドックフィールドを開設したり、「自分が見つけた村」と自発的な行動をした学生が若者を呼び込み起業し、村が活性化した事例や若者へ資金提供して企業を促し成功した事例、ネットにデジタル村民を集めて、年数回は遊びに来てもらっている事例など紹介された。 様々な事例を見ていて感じたのは、やる気があればなんでも良いと感じられた。ただ、南箕輪村に置き換えると、状況が違うのは人口が増えている若い村であるという事が、役場や住民の意識がそこまでの危機感を感じてないことである。新たなサービスを生むことは必要だと考えるが、現状に不満が無い状態であれば気概が生まれにくいものである。 南箕輪村においても関係人口を増やすことは重要であるため、ネットを通じてリアルに関係人口を増やす手段を模索するべきであると思った。町村議会議員研修は参考になるが、あまり有益でないと感じている。2 時間 30 分ほどで良い。
--	---

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。